碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

7年11月　（280号）
発行者　根岸岳萃
編集者　中村岳愛

7年11月現在　会員数
逗子地区　169名
葉山地区　204名
大船地区　44名
（合計　417名）

十二月の予定行事

○県本部総伝会
日　時・12月3日(日)10時より
場　所・逗子会館

○碩心会逗子地区温習会
日　時・12月9日(土)9時30分より
場　所・逗子市立図書館ホール
※終了後、五時より六代御前社務所に於て常任理事以上の懇親会を行ないます。

○碩心会指導者納会
日　時・12月19日(火)午後7時より
場　所・夢庵（なぎさホテルあと）

第106回全国大会 合吟コンクール参加御苦労様

11月5日、盛岡に於て行なわれた右会に、碩心会から10名一組の合吟コンクールに参加しましたが、残念ながら入賞を逸しました。指導担当の村田、松井の両先生、又参加の皆様、お忙しい中、遠い所、御苦労様でした。

葉山町文化祭、詩吟詩舞の会 皆さんの協力で、順調に無事終了

11月3日、文化の日の秋晴れの佳き日に右会が行なわれました。役員の皆様のお骨折と会員の皆様の協力により、順調に進み、無事終了しました。

文化祭詩吟詩舞の会には第一回目から参加、来年は三十回を迎えます。過ぎし日のプロをめくり感無量です。来年にそなえ、早目に企画し、内容豊かな会にしたいと思っておりますので、皆様の協力をお願いいたします。

逗子市文化祭、詩吟詩舞発表会 日頃の錬成ぶりを発揮

晴天に恵まれた10月29日、第45回逗子市文化祭、詩吟詩舞連盟の発表大会が図書館ホールで行なわれました。

九月に亡くなられた綾部秋香先生に対し、一同黙禱を捧げたのち、開会の辞、富士山大合吟、吟詠、書華道吟、詩舞等、予定通り進行、お互いの日頃の錬成ぶりを発揮し、大いに盛り上がり、役員吟詠で幕を閉じました。

成都楽山大足と三峡クルーズの旅

戯歌紀行（禿象）　宇都宮徳岳

今年は揚子江の西陵に長江ダムが完成すると、三峡下りが出来なくなるというので、前記ツアーに参加し、十月二日から十二日まで中国旅行をしてきました。例の如く、その都度ものした戯歌紀行の抜粋と、漢詩二首を披露させていただきます。

十月　二日（簡体字について感あり）

あな惜しや　四千年の　文字文化
簡体文字で　もう(も)お仕舞か

十月　三日（上海から成都へ翔び　早速武侯祠を見学して）

孔明や　劉備関羽の　三国志
眼の当り見る　武侯諸像に

（杜甫草堂を見学して）

感深し　詩聖の杜甫が　此処に住み
名詩を生みし　草堂を見て

◎訪成都杜甫草堂

成都，旅次泊高楼
眼下，錦江千古，流
老杜三年安住，地
耽懐散策草堂，頭

十月　八日（8時40分白帝城を通過す。船尾に立ちて李白の「早に白帝城を発す」を吟じて）

白帝に　声も届けと　李白の詩
吟じ終りて　瞿塘峡に入り

◎過白帝城下次李白詩早発白帝城率賦

朝看白帝緑陰，間
緬想騒人喜躍還
興湧立艫吟絶句
眼前己迫萬重，山

十月　九日（夜の演芸会に「早に白帝城を発す」を吟じて）

船内の　演芸会で　詩を吟じ
国際交流　多少お役に

十月十一日（黄鶴楼に登り、崔顥の黄鶴楼の書を前にし、同詩を吟じて）

嬉しきは　黄鶴楼の　書の前で
宿願果し　吟ずるを得て

◎下三峡到漢陽登黄鶴楼

宿望三峡，旅過盡急潮，流
遂到漢陽，陌得登黄鶴楼

十月十二日（予定通り13時成田空港に無事帰着して）

此の度の　旅行は特に　楽しけれ
詩吟とダンス　フルに生かせて

小倉百人一首、秋の句より

「小倉百人一首」とは、藤原定家が京都嵯峨野の小倉山に設けていた別荘「小倉山荘」でこれらの歌を選び、染筆したとされることによる呼称で、歌人百人から各一首を採るという形式の秀選歌の最初であり、後にこれをまねた多くの歌集も生まれたが、単に「百人一首」といえばこれを指す。

天智天皇から順徳院まで、奈良、平安、鎌倉の三代にわたる歌人（僧侶13人を含む男性79人、女性21人）を、ほぼ没年順に配列してある。

次に百首の中から、秋にちなんだ歌をとりあげてみましょう。

（天智天皇）

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ
わが衣手は露にぬれつつ

秋の田のそばの仮小屋を葺く苫の編み方が粗いので、露に袖を夜毎濡らす農夫のような私だ。

（猿丸大夫）

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の
声聞く時ぞ秋はかなしき

奥深い山中で、散り敷く紅葉を踏み分けて鳴く鹿の声を聞く時こそ、私はひとしお悲しい。

（在原業平）

千早ぶる神代も聞かず竜田川
からくれなゐに水くくるとは

神代の昔にも聞いたことがない、竜田川が紅葉で美しい紅色に水を絞り染めにするとは。

（大江千里）

月みれば千々に物こそかなしけれ
わが身一つの秋にはあらねど

月をみるとなぜか限りなくもの悲しくなる。私一人のために訪れる秋ではないのだけれど。

（能因法師）

嵐吹く三室の山のもみぢ葉は
竜田の川の錦なりけり

山風が激しく吹く三室山の紅葉の葉は、竜田川を錦織りのようにして散り乱れるのだ。

（良暹法師）

さびしさに宿を立ち出でてながむれば
いづこも同じ秋の夕暮

寂しさに耐えかねて庵を出てあたりを眺めると、どこも同じくわびしい秋の夕暮れの景色よ。

（源経信）

夕されば門田の稲葉おとづれて
芦のまろ屋に秋風ぞ吹く

夕方になると門前の田の稲葉をそよがせ、芦葺きのこの田舎家にも秋風が吹き過ぎる。

（藤原顕輔）

秋風にたなびく雲の絶え間より
もれ出づる月の影のさやけき

秋風のためにたなびく雲の切れ目からこぼれ出てくる月の光の澄んだ明るさよ。

（寂蓮法師）

村雨の露のまだひぬ真木の葉に
霧立ちのぼる秋の夕暮

通り雨の雫もまだ乾かない杉や檜の葉に、谷から湧いた霧が立ちこめてくる秋の夕暮よ。

（藤原良経）

きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに
衣片敷き一人かも寝む

こおろぎが鳴く寒い霜の夜、筵に片袖を敷いてわびしく独り寝をするのか。

峨眉山月の歌

李　白

峨眉山月半輪の秋
影は平羌江水に入って流る
夜清渓を発して三峡に向う
君を思えども見えず渝州を下る

（峨眉山）
四川省西部の名山。標高三〇九九米。月の名所でもある。

（平羌江）
今の青衣江。四川省蘆山県に発し、峨眉山の東北のふもとを流れ、楽山県に至って岷江（びんこう）（長江の支流）に合流する。

（清　渓）
岷江沿岸の宿場の名。楽山県より岷江に入り、80粁ほど下った所にある。

（三　峡）
長江の四川省奉節県より湖北省宜昌市までの三つの峡谷。上流から瞿塘峡（くとうきょう）、巫峡（ふきょう）、西陵峡。切り立った山間を流れ船旅の難所。

（渝　州）
今の四川省重慶市。清渓と三峡の間にある清渓から約400粁の地点。

この詩は、李白が蜀を船出して三峡へ向かうときの作。開元十三年（七二五）李白25才。第三句の「三峡」は、船旅の難所であると共に、実社会に乗り出す李白の、前途への不安を示す象徴であろう。

わずか28字の中に、峨眉山、平羌江、清渓、三峡、渝州と、地名が五つもうたいこまれていながら、それが少しも詩の流れを損なわず、むしろ船旅の雰囲気を高めているところがすばらしい。

なお、第四句の「君」は、ふつう月をさすと解せられるが、漢詩で「君を思う」といえばまず人をさすこと、また「峨眉山」が蛾眉に通じ、美しい女性への連想があることから、ここでは故郷の女友だち…若き李白の意中の人…をも暗示していよう。月を見て遠い知人をしのぶというのは、漢詩の常套的手段でもある。　（石川忠久　漢詩をよむより）

終戦五十周年、亡き兄を憶う

去る10月1日、葉山文化会館に於て、京愛会詩舞のつどいを催しました。その折、偶々山下奉文大将の「獄中作」の詩文が手に入り詩舞振付し、ナレーター、音楽等入れて舞わせていただきましたところ、大変感動したとの評をいただき、以来、葉山のふるさとまつり、又、神奈川県戦没者慰霊堂付属会館に於ても上演、遺族会の皆様からも感動の声をいただきました。奇しくも私の長兄は昭和20年フィリッピンで、次兄も又戦死で、偶々終戦五十周年に際し、この道を通じて供養ができ胸つまるのを憶えました。合掌　中村岳愛

大根のどあめの作り方

①皮つきの大根を適量、さいの目に切り、保存器などに入れる。
②水あめかハチミツを上からたっぷりかけ、一～二日そのままおく。
③大根の水分がしみ出し、くなくなになったら、大根を取り除く。
④大根のエキスがしみ出した水あめかハチミツを、スプーン一～二杯ずつ飲む。ぬるま湯で薄めて、うがい薬として使ってもよい。

（移　籍）
436 石川正太郎　若葉支部より銀詠支部へ

（退　会）
128 飛田與風（長　柄）344 長島雅泉（逝・A）
346 斉藤操泉（剛・B）358 梅津貴泉（逝・A）